

寛政五癸丑歲下蝦夷地子毛口江来ル魯西亜國之
船圖



程々緋羅漢、長船ナリ

程々緋ノ旗ナリ

帆太織ノ
白布ナリ

羅紗ノ八分

白羅紗香

大船頭

按之此國ハ章太茂吉等ヲ護送ノ船ナリ
近藤重守著スル魯西亜史卷之三ニ云ク天
明ニ壬寅年伊勢國白子村神昌丸船主彦
兵衛船頭幸太夫外十六人乗組同年十二月
志列島羽出帆メ駿河沖ニ難風逢ヒ
漂流シ翌卯年七月アモリツカ島ヘ漂着
同所ニ四年滞留セシ人此島ヘ獵虎漢
未リシ船アリ其船ニ便ヒテ同セマ年八月
カサカカヘ着船同八月年アモリツカヘ着テ
アモリツカヘ入津土月アモリツカヘ着テ
政元百年二月アモリツカヘ着同三年
二月アモリツカヘ着テ下官ハモリツカヘ着
アモリツカヘ着テ同十月城下出立同

平日ニテモ
上官ハ羅紗程々緋ノ着
下官ハモリツカナリ

務此此國ハ幸夫大儀吉等ヲ護送ノ船ニシテ
 近藤重守著スル魯西史卷之三ニ云ク天
 明ニ至寅年伊勢國白子村神昌先船主彦
 兵衛船頭幸太夫外十六人衆組同年十二月
 志列島羽出帆ノ駿河沖ニテ雅屋達ニ
 漂流シ翌卯年七月アミエツカ島ヘ漂着
 同所ニ四年滯留セシ赤人此島ヘ獵虎漢
 未リシ船アリ其船ニ便乞ヒテ同七年八月
 カムサカヘ着船同八月年チキリヲ經テ
 シホツカヘ入津土月ヤコツカヘ着寛
 政元酉年二月アルコツカヘ着同三年
 二月ヨシヤツ城下至ルホシ著 女帝
 丑イカテリナニ謁シ同十月城下出立同
 四年九月十三日漂流幸太夫殘吉小市三
 人ヨシヤツ聘使ト同船ヲホツカ開帆十
 月三日東ノ蝦夷地ハラサニヘ故着同五日
 子モロヘ歸國ス同時魯西亞國女帝 子
 カテリナアルキセツ子ノ聘使ノ名アタムキリ
 ロウイ 千ラクスマン 官ハホロツチクニ歳二十
 ハナリ大船頭シレイヒヨフトロフイトロフン
 官ヨリサシト歳三十六ナリ南部漂流久助
 子イハシヒホヒチクラハースニコス官ヤリサシ
 ト歳三十四其外三拾四人寛政五年五月
 七日東蝦夷ノ地子モロ出帆六月八日箱
 館ヘ着船同月廿日松前ヘ出テ書ヲ
 捧ケ物ヲ獻セテテ請フ不許令テ論シ
 物ヲ賜ヒ七月十六日箱館ヨリ故帆ス

嘉永五壬子歲七月 寫圖識之

嘉永五壬子歲七月中餘日寫之

平日ニテモ
 上官ハ羅紗程マ緋ッ着
 下官ハモミ皮ナリ

キセルニテタバコ吞ハ上官
 コニシタルタバコ鼻穴ニ入ルハ下官



程マ緋ノ旗ナリ

程マ緋ノ旗ナリ

帆太織ノ
白布ナリ

羅紗



羅紗ノハタ

大船頭ワシイ

白羅紗着物

船中ノ水入タ
ン各水取ル所ナリ

煙草是
元ハ上ノ固

全船ノ半鐘

二本丸ノ破ナリ

大筒
鉄砲双
方ニ仕
拭アリ

是ヤ多
引雨
流る
桶ナリ

此文ニテ
所
ト
子
ナ
リ

ERATERINA
TO T ODA
NYONIA LANI



羅紗

船中水入多
ン春水取所ナリ

煙草
元入上四

子丑其向ニ入、面アリ

二本丸、破ナリ

大筒
鉄炮
方ニ仕
拭アリ

是ヤ多
流之
桶ナリ

小左千門
政氏写之



務る此國ハ幸大夫磯吉等ヲ護送ノ船ナルベシ
 近藤重守著スル魯西史卷之三ニ云ク天
 明二壬寅年伊勢國白子村神昌丸船主彦
 兵衛船頭幸大夫外十六人乗組同年十二月
 志列島羽出帆メ駿河沖ニテ雅風ニ逢ヒ
 漂流シ翌卯年七月アミエイツカ島ヘ漂着
 同所ニ四年滯留セシ赤人此島ヘ獵虎漢ニ
 来リシ船アリ其船ニ便乞ヒテ同七亥年八月
 カムサスカヘ着船同八申年「チキリ」ヲ経テ
 「シホーツカ」ヘ入津十一月「ヤフーツカ」ヘ着寛
 政元酉年二月「イルフーツカ」ヘ着同三亥年
 二月「ロシヤ」城下「キテルホル」至着 女帝
 「エイカテリナ」ニ謁シ同十一月城下出立同
 四子年九月十三日漂民幸大夫磯吉小市三
 入「ロシヤ」聘使ト同船「シホーツカ」開帆十
 月三日東ノ蝦夷地「ハラサシ」ヘ故着同五日
 「子モロ」ヘ帰国ス同時魯西史國女帝「ア
 カテリナ」アレキセウチ「ノ」聘使ノ名「アタムキリ」
 「ロウイ」チラクスマン「官」ハホロツテ「歳」二十
 ハナリ大船頭「シレイヒヨフ」トロフイトロフツ
 「官」ヤリサント「歳」三十六ナリ南部漂民久助ノ
 子「イハシビリホヒ」チクラペースニコス「官」ヤリサシ
 ト「歳」三十四其外三拾四人寛政五年五月
 七日東蝦夷ノ地「子モロ」出帆六月八日箱
 館ヘ着船同月廿日松前ヘ出テ書ヲ
 捧ケ物ヲ献ゼ「テ」ヲ請フ不許令ヲ論シ
 物ヲ賜ヒ七月十六日箱館ヨリ故帆ス

ト云ク

嘉永五壬子歳七月寫圖識之

